

ライラック・フーズ株式会社

2022 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2022 年4月1日～ 2023 年3月31日)

グラタン



ドリア



厚焼き卵



これらの商品は「安全、安心、高品質」はもちろんのこと、食のシーンを通じてお客様に楽しんでいただけるよう、こだわりを持って製造しております。

現在は、本格的なホワイトソースと焼き上げたチーズが香ばしいグラタン、ドリアをはじめ、タマゴ製品として、茹で卵やサラダなどの加工品および厚焼き卵などの惣菜を製造。

これら3つの商品群を、北海道全域へ毎日供給しています。



目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	1
環境経営方針	1
組織の概要	2
事業・製品の紹介	2
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	3
主な環境負荷の実績	4
環境経営目標及びその実績	4
環境経営計画の取組結果とその評価	5
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	8
緊急事態対応訓練	8
代表者による全体の評価と見直し・指示	9

安全・安心への取り組み

安心・安全が求められる時代、品質管理の徹底が必須となっています。

私たちは使用食材の産地情報の表示や食事そのものの品質向上にも力を注いでいます。

・食材の産地情報表示

使用されている食材について、安心安全に食事をとっていただくためにライラック・フーズでは、産地情報表示の徹底を行っております。

・徹底した品質管理

品質衛生面から工場内の安全品質管理・工場内衛生環境工場の徹底、従業員の健康管理、衛生管理を徹底すること、ご提供する商品が完全安心であることをお約束しています。

・食事そのものの品質向上

豊かに立ったといわれる時代においても、さらに良い商品の提供を目指すべく、見た目・風味・色彩まですべて



当社は、ケンコーマヨネーズ株式会社のグループ企業として、平成8年に設立。
大手コンビニエンスストア様に向けて、商品を生産してまいりました。

これらの商品は「安全、安心、高品質」はもちろんのこと、
食のシーンを通じてお客様に楽しんでいただけるよう、こだわりを持って製造しております。

現在は、本格的なホワイトソースと焼き上げたチーズが香ばしいグラタン、ドリアをはじめ、
タマゴ製品として、茹で卵やサラダなどの加工品および厚焼き卵などの惣菜を製造。
これら3つの商品群を、北海道全域へ毎日供給しています。

皆さまの食卓においしさを提供できるよう、日々チャレンジしています。

環境経営方針

<環境経営理念>

私たちは、今後も食のシーンに係る様々な商品・サービス・情報の提供を企業活動を通じて、関係するすべての方々の心と身体と環境を大切にし、又、命の源となる食べ物を育む地球環境に係る問題に真摯に取り組んでいきたいと私達は考えています。

<環境保全への行動指針>

1. 省資源・リサイクル等、環境への影響に十分配慮した商品づくりに取り組みます。
2. 生産を始めとする全ての事業活動におけるCO₂発生の抑制に努めます。
3. 工場においてゼロエミッションを目指し、原料調達から製品販売に至るまでに発生する廃棄物の削減とリサイクルに努めます。
4. 環境問題の重要性を認識し、資源の有効利用及び廃棄物の削減により、環境問題に積極的に取り組みます。
5. お客様に安全と安心をお届けする為に、使用原材料・製造等に関する各種データの記録管理を行い、トレーサビリティの確保に努めます。
6. 日本国内及び諸外国における関係法令やルールを遵守し、社会に信頼される公正で良識ある企業活動を行います。
7. 企業をとりまく社会との交流や地域社会への貢献活動に積極的に取り組みます。



制定日：2020年4月1日

代表取締役社長 古賀 勝之

□組織の概要

更新日：2023年4月1日

(1) 名称及び代表者名

ライラック・フーズ株式会社
代表取締役社長 古賀 勝之

(2) 所在地

本社 北海道白老郡白老町字石山68番地9

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	工場長	福田 正一	TEL：0144-83-5333
担当者	工務課 課長	河内 孝徳	TEL：0144-83-5333

(4) 事業内容

軽食・玉子加工品・惣菜・カット野菜の製造

(5) 事業の規模

売上高 21.7 億円

	本社				合計
従業員 名	135 名				135名
延べ床面積 m ²	6645.8 m ²				6,646m ²

(6) 事業年度

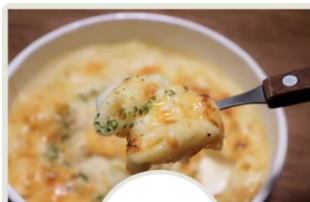
4 月 1 日 ～ 3 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：ライラック・フーズ株式会社
対象事業所：本社

活動：軽食・玉子加工品・惣菜・カット野菜の製造

□事業や製品(商品)の紹介



グラタン



道産の牛乳にこだわったグラタン。生クリーム
のkokoroに玉ねぎの甘さがプラスした、ボリューム
感たっぷりの一品です



ドリア



ご飯との相性を考えたホワイトソース。グラタン
とは違い、ご飯にからまったチーズとソース
をお楽しみいただけます。



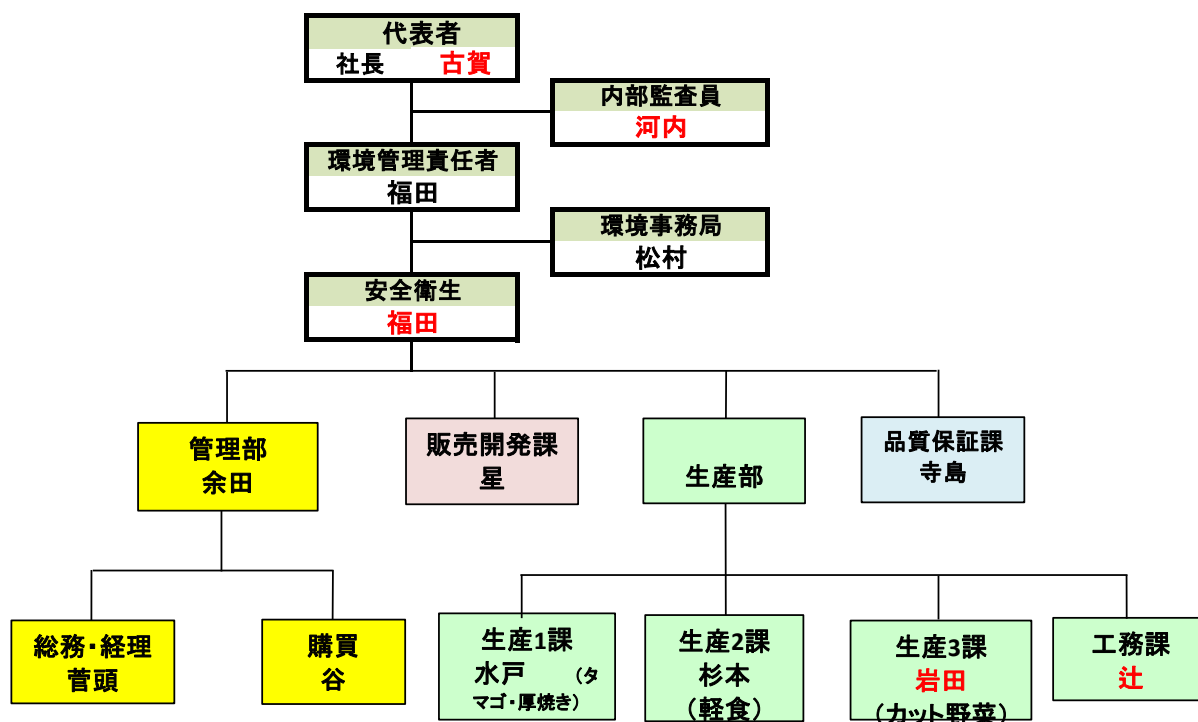
厚焼き卵
煮卵



ダシが決め手の厚焼き卵。醤油ベースの
下味が染みた煮卵。タマゴを使ったさま
ざまな惣菜商品を提供しています。

カット 野菜





	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、安全衛生の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
安全衛生	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長 工場長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査チーム	・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2020年	2021年	2022年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	1,216,331	1,194,630	1,086,758
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	46,561	46,150	43,545
産業廃棄物排出量	kg	609,610	603,190	511,930
食品廃棄物				
発生量	kg	797,293	797,293	821,073
発生抑制量			0	0
再生利用量		534,380	534,380	588,398
熱回収量			0	0
減量量		262,913	262,913	232,675
再生利用以外の量			0	0
廃棄物処理量			0	0
食品再資源化実施率	%	100%	100%	100%
水使用量	m ³	87,339	87,339	83,654

※二酸化炭素排出係数 0.525 kg-CO₂/kWh

※ 22年度 王子・伊藤忠エネクス電力販売(株) 公表値による排出係数を使用

□環境経営目標及びその実績

年 度 項 目		基準値	2022年		評価	2023年	2024年
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	772,264	764,541	715,278	○	749,096	733,651
	基準年度比	2019年	99%	94%	○	97%	95%
	原単位 kg-CO ₂ /千円	0.356	0.353	0.311	○	0.346	0.338
LPGによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	291,215	288,303	263,673	○	282,478	276,654
	基準年度比	2019年	99%	91%	○	97%	95%
	原単位 kg-CO ₂ /千円	0.190	0.188	0.159	○	0.184	0.181
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	5,433	5,379	5,016	○	5,379	5,379
	基準年度比	2019年	99%	93%	○	99%	99%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	1,063,479	1,052,844	978,951	○	1,031,574	1,010,305
一般廃棄物の削減	kg	46,150	43,843	43,545	○	43,843	43,843
	基準年度比	2019年	95%	99%	○	95%	95%
廃プラの削減	kg	75,230	74,478	61,480	○	71,469	71,469
	基準年度比	2019年	99%	83%	○	95%	95%
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	自主目標		99%	100%	○	99%	99%
	食り法目標		80%	100%	○		
	基準発生原単位 kg/百万円		211	305	×	211	
水道水の削減	m ³	87,339	86,466	83,654	○	85,592	84,719
	基準年度比	2019年	99%	97%	○	98%	97%
原単位	m ³ /千円	0.040	0.040	0.036	○	0.039	0.039
化学物質の適正管理	行動目標 (次項による)						
環境に配慮した製品・サービスへの取組	行動目標 (次項による)						

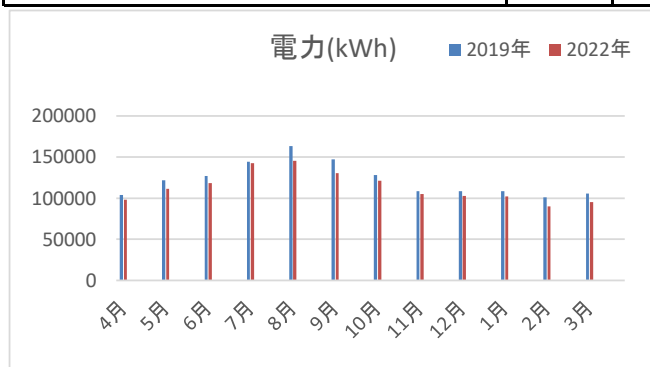
※二酸化炭素排出量合計は電力、LPG、自動車燃料使用による二酸化炭素排出量合計であり、二酸化炭素総排出量とは異なります

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標:○達成 ×未達成

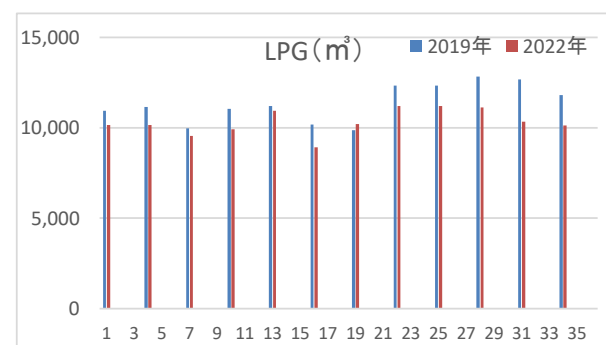
活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	冬季気温低下による生産に影響の無い部署(室内)において空調機の終日停止を実施。
・空調温度の適正化(事務所等:冷房28℃ 暖房20℃)	○	使用量に関しては、基準年以下を推移し次年度も継続実施とする。
・工場内LED化(今年度目標LED化率70%以上)	○	LED化率70%を目標としてましたが、68.7%とLEDに関しては未達となりました。次年度は90%を目標とし継続実施を行う。
・仕事の効率化による定時退社の実施	○	
・生産工程の待機時間短縮	○	
・冷水機の夜間停止による電力削減	○	



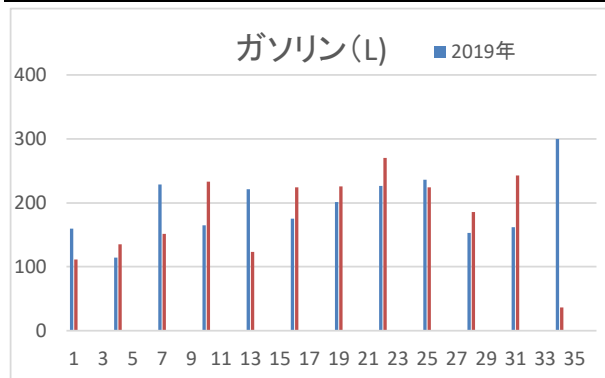
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	104,048	121,653	126,958	144,076	163,299	147,401	128,063	108,425	108,502	108,502	101,156	105,893
2022年	97,840	111,361	118,603	142,444	145,189	130,318	121,240	105,200	102,888	101,961	90,124	95,266

LPGによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	前年に引き続き、使用量の少ない4月～8月では、夜間停止措置による使用量の削減が出来たが、気温低下による9月～3月は24時間可動状態(夜間凍結防止の為)により可動していたが、工場内の蒸気漏れ補修等の修繕が微量ではあるが、使用量の削減に貢献しているものと考えられる。次年度も継続実施する。
・蒸気・冷温水配管の保温強化	○	
・ボイラー夜間停止によるCO2排出抑制 (4月～8月)	○	



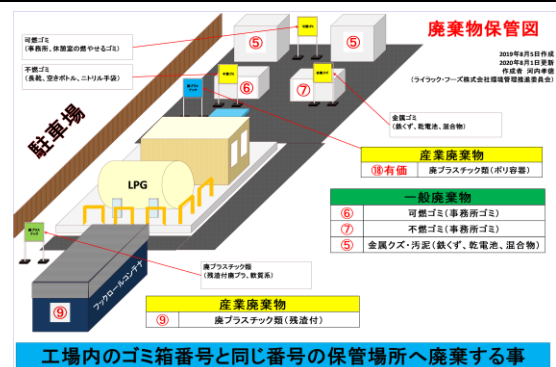
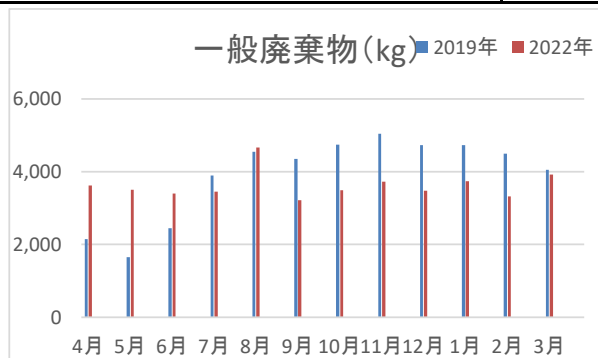
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	10,932	11,152	9,966	11,061	11,216	10,177	9,874	12,329	12,329	12,829	12,682	11,803
2022年	10,163	10,145	9,563	9,925	10,946	8,917	10,213	11,216	11,216	11,120	10,328	10,140

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	ご指摘対応業務による遠距離走行時は、ハイブリット車を使用するなど、ガソリン使用削減に取り組み結果として出ている。次年度も継続実施する。
・アイドリングストップ	○	
・		
・		



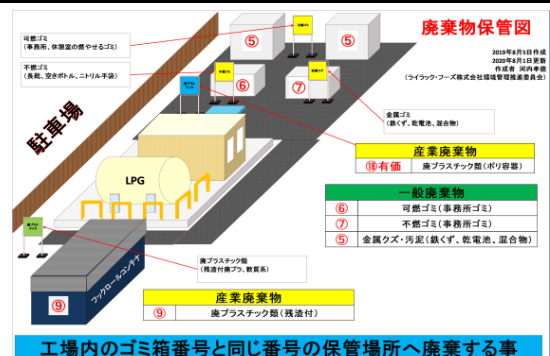
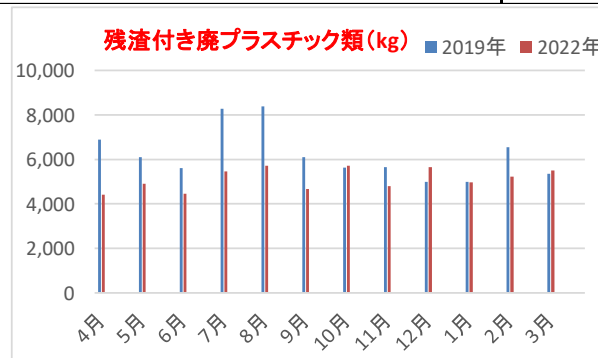
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	160	114	229	165	221	175	201	227	236	153	162	300
2022年	111	135	152	233	123	224	226	270	224	185	243	36

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	次年度は、ペーパーレスシステムの導入による印刷物の削減を目標とする。
・分別の徹底	○	
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・コピー用紙の削減	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	2,150	1,650	2,450	3,900	4,550	4,350	4,750	5,050	4,725	4,725	4,500	4,050
2022年	3,621	3,509	3,398	3,456	4,671	3,214	3,489	3,727	3,474	3,737	3,322	3,927

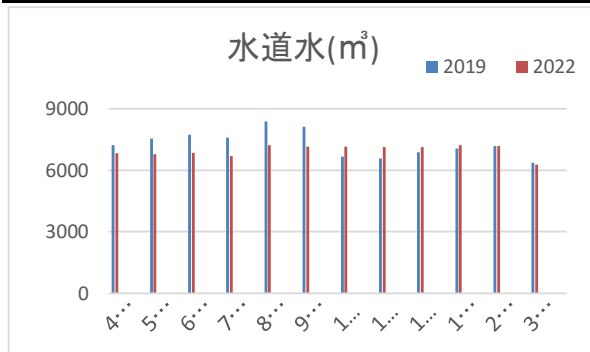
廃プラの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	年間トータルとしては、入荷原材料に使用されているビニール袋の工場内ゴミ袋への再利用により、廃プラの排出量削減に貢献している。次年度も継続実施し削減取り組みを行う。
・包材発注量の精度アップ	○	
・包装不良の削減	○	
・分別の徹底	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	6,890	6,110	5,600	8,280	8,390	6,110	5,640	5,650	5,000	5,000	6,540	5,350
2022年	4,420	4,910	4,450	5,450	5,720	4,680	5,710	4,790	5,650	4,970	5,230	5,500

食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	各課歩留改善取り組みにより廃棄削減が表れている。中でも、軽食による具材廃棄量の削減取り組み(具材保管庫を設置し翌日使用出来る事により、見込み生産による過剰生産分の廃棄量を減らすことが出来た)が大きく食品残渣の7割を占める部署で削減することが出来た。次年度も継続実施をおこなう。
・原材料発注量の精度アップ	○	
・在庫管理の強化による不良在庫削減	○	
・分別の徹底	△	
・再資源化先の開拓	○	

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	生産量にもよりますが、各課での節水意識が今一つと見受けられる。いまだに水撒き清掃を行っている人が多数いる為、各課責任者による指導を強化する必要性あり。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・洗浄時の流しっぱなしをしない	○	
・節水コマの設置による使用量の削減	○	
・止水バルブの設置による節水。	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	7,217	7,540	7,731	7,592	8,377	8,137	6,680	6,581	6,882	7,058	7,179	6,365
2022年	6,831	6,788	6,848	6,696	7,229	7,157	7,150	7,137	7,140	7,233	7,175	6,270

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・リスクアセスメントの実施	○	1回/年の更新見直しも実施されており、問題なし。次年度も継続実施。
・有害性物質の表示の徹底	○	
・従業員教育(入社時)	○	

環境に配慮した製品・サービスへの取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・自社開発商品の開発	○	次年度も継続実施。
・トッピング具材使用期限の延長	○	
・規格外品活用	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（動植物性残さ、廃プラ、廃油等）
食品リサイクル法	食品廃棄物
容器包装リサイクル法	容器包装
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
振動規制法	空気圧縮機
水質汚濁法	煮湯設備、洗浄設備
下水道法	除害施設
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
省エネ法	特定事業所

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

○外部からの環境上の苦情・要請はありません

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2023年3月30日	■実施場所 ライラック・フーズ株式会社
■参加者： 当日出勤従業員（70名）	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練	
■評価： 場内放送が聞こえずらい為、2回復唱し対応。 手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし	
■実施状況の様子	
	

緊急事態の想定： 油流出事故の発生	
■実施日： 2023年4月1日	■実施場所
■参加者：	■実施内容： ・流出事故対応、通報訓練
■実施内容： ☒ 初期対応訓練 ☒ 通報訓練	
■評価： 手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし	
■実施状況の様子	
	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2023年6月30日

・目標・計画の達成状況について

二酸化炭素排出量は基準年1,063,479 目標1,052,844 実績978,951となり目標を達成いたしました。

また、廃棄物、水道水の削減も目標を達成した。

従業員全員にこの取り組みを理解してもらうことが大切である。

2023年度も引き続き、目標の達成のために工場内照明のLDE化

作業の効率化、冬季時の空調設備や冷凍機の計画停止を実施すること

節水については各自の節水に対する意識の改善を実施すること

(全体朝礼等を活用し、エコアクション21の活動について共有と教育を行うこと)

環境経営方針

☒ 変更なし

☐ 変更あり

環境経営目標・計画

☒ 変更なし

☐ 変更あり

実施体制他

☒ 変更なし

☐ 変更あり